

年次支部ニュース

第7号

特集

卒業おめでとう! HAKUMON



白門フェスティバルにて

2014年ミスター中央の添田洋平さん▶



▲2014年準ミス中央の色紙悠さん



2017年卒業の皆様へ

中央大学学員会
会長 久野修慈



2017年ご卒業、誠におめでとうございます。

今年、卒業された皆さんは社会人として、或いは大学院等に進まれる方も居られると存じます。どちらに進まれても中央大学の卒業生として学員（同窓）の一員となられるわけです。中央大学学員会は、約56万人の全卒業生で構成されている団体です。学員会の目的は、母校中央大学への支援と全学員間の親睦交流にあります。

近年の少子高齢化社会のもとで、入学者も大きく減少にいたる『2018年問題』として、学生の確保に大学間の競争時代になりつつあります。

中央大学では、一昨年中長期計画が策定され、今年二年目を迎えています。大学当局が自ら確実に施策を実行することが重要なこととなりますが、学員会としても学員が一丸となって支援していく所存です。

皆さんは、これから社会人としてより充実した人生を謳歌し、人生の夢に挑戦されると存じます。そのためには人との交わりを深められ、日々ご自分を高めるために学員会を大いに活用して下さい。

学員会の構成は、各卒業年度で構成する年次支部があり、各支部を横断的に交流する年次支部協議会が幅

広く活動しています。また、全国の都道府県に地域の支部、職業区分による職域支部があります。卒業生は、これらの希望する支部を選んで入会できます。そして、交流のネットワークの下にゆるぎない絆となり、終世交流を図れるでしょう。

卒業生の皆さん、健康で気概のある若者となって企業、地域社会、学校などでお役にたてるよう前進してください。我々は、皆さんが各支部に入会されることを心待ちにしています。どの支部からも歓迎されるでしょう。

卒業生インタビュー

ソングリーディングに情熱燃やした4年間

—総合政策学部国際政策文化学科・新澤美沙さんに聞く—

社会に出る者、研究のため学生を続ける者。春は誰にとっても人生の転換点となる。新たな挑戦を前に期待を膨らませる者や不安に思う者もいるだろう。4月に社会人となる総合政策学部国際政策文化学科の新澤美沙さんに、学生生活の思い出、将来の夢などを聞いた。



新澤美沙さん

出場した2年の夏です。演技の後、歓声につつまれる会場。今まで感じたことのない高揚感を味わいました。一瞬でソングリーディングの魅力にはまり、より一層活動が充実するようになりました。いくら踊っても足りないと感じるくらいに没頭しましたね。(笑い)

初心忘れず日々全力ダッシュ

—卒業後の進路は。

新澤 春から外資系航空会社の客室乗務員(CA)になります。大学1年の夏にハワイに短期留学をしてから、異文化交流に魅力を感じるようになりました。ソングリーディングで養ったチームワークを活かしつつ、その興味を満たすにはCAが適していると考え、就職活動し、運よく内定をもらうことができました。勤務地は早速、外国になるので、今は張り切って語学勉強に取り組んでいます。

—新たな人生を歩んでいくうえで一言お願いします。

新澤 この4年間、全身全霊、妥協なしの毎日を過ごし、幸せな学生生活になりました。これまでの生き方が自分に合っていると自信を持っています。だから、これからの人生について悩んではいません。大学という小さな世界から、社会という大きな世界に移るだけのこと。夢を叶え、幸せになりたいからこそ日々全力ダッシュです。初心を忘れず、これからも頑張ります。

—ありがとうございました。

(聞き手/加藤英樹)

—大学4年間のいちばんの思い出は何ですか。

新澤美沙さん やはり、ソングリーディング部ガーネット・ガールズ(GG)での活動です。ソングリーディングには高校時代から憧れていたのですが、GGは大学の中でも強豪チーム。ダンスなど経験のない初心者の私でしたから、活躍する機会はないだろうと思っていましたが、最終的に私の背中を押してくれたのが母の存在でした。

—というのは?

新澤 私が大学に入学したとき、母が大病を患っていることが分かりました。特別仲がいいという親子関係ではなかったのですが、苦勞して私達姉妹3人を育ててくれた母には感謝の気持ちでいっぱいでした。どう

しても彼女を勇気づけたかった。そこで、私が高校時代に初めてソングリーディングを見たとき、不思議と心から元気になったことを思い出しました。ソングリーディング部で活動すれば、母を、そしてたくさんの人を笑顔にし、勇気づけられると思い、入部を決めました。

—初心者ということで最初は辛くなかったですか。

新澤 初心者の私を見捨てず、熱心に指導してくれる先輩。一緒に頑張ろうと励まし合った同期のメンバーたち。仲間にも恵まれたことで、辛い練習も苦にはなりません。ソングリーディングに対する気持ちが大きく変わったのは、初めて大会に



ソングリーディング部 ガーネット・ガールズ(GG)



励まし合った仲間たちと

学んだことは挑戦することの重要性

商学部会計学科・添田洋平さん
経済学部経済学科・色紙悠さん

毎年、1000人を超す観客が訪れる中央大学のミス・ミスターコンテスト。期間中、候補者たちは中央大学の顔としてイベントを盛り上げる。コンテストに対する思いは真剣そのもの。候補者は「現状を変えたい」という気持ちで臨むからだ。添田洋平さん（商学部会計学科）と色紙悠さん（経済学部経済学科）もそのうちの1人だった。2014年のコンテストでミスター中央、準ミス中央に選ばれた2人は今年卒業する。2人に当時の思い出やその後の学生生活を振り返ってもらった。



2014年準ミスになった時の色紙悠さん



2014年ミスター中央になった時の添田洋平さん



色紙さん(左)と添田さん(右)

現状を打破したい

添田さんと色紙さんが2人ともコンテストへの参加を志したのはともに1年目の終わり、2014年の冬だった。「バイトとサークル活動だけの変化のない生活に心がもやもやしていました。日常に変化がほしかった。それがミスコン出場の理由でした」と、添田さんは語る。色紙さんは高校時代、他大学に進学していた姉が同大学のミスコンに出場し、グランプリを受賞したことがイベントに興

味を持ったきっかけだという。「自信に満ち溢れたウェディングドレス姿の姉に感動しました。入学してから応募へ踏み出すまでには時間がかかりました。ミスコン運営団体の方に声を掛けたとき初めて『チャンスは逃すものか』と勇気を振り絞り、やっと決意しました。それは入学から約1年経った頃でしたね」(色紙さん)

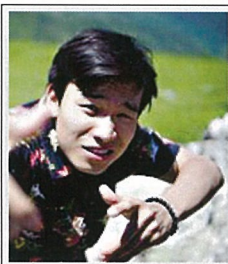
コンテストを振り返ってもらうと、「プレッシャーはありました。でも、それ以上に応援してくれる仲間の声を強く感じたので、くじけず頑張り続けることができました」と、添田さん。色紙さんもその言葉に深くうなずいた。

コンテストが終わってからも2人は挑戦の日々を送った。「ミスコンがきっかけでアナウンサーに興味を持ったので、残りの学生生活はそのための準備の日々でした」(色紙さん)、「私もイベントに参加してから将来の自分を真剣に考えるようになりました。テレビ番組制作の現場を目指していたので、番組アシスタントとして働き、現場の様子を学びました」(添田さん)

トライ・アンド・エラーで新たな夢を描く

だが、2人はそれぞれ当初とは違う夢を追うことを決意する。色紙さんは今年4月からアナウンサーではなく、一般企業で事務職として働く。「いろいろと挑戦はしたものの、アナウンサーとして活動している将来の自分が想像できませんでした。『私は何がしたいのか』と、自分に問いを投げかけ『私は自分が生み出す価値を間近で実感したい』という結論にいたりました。結局、ビジネスの世界で挑戦することにしたのがそれが理由です」(色紙)一方の添田さんは「僕、早く子供がほしいんですよ。一緒にキャッチボールがしたい(笑い)」と笑顔で話す。「テレビ番組の制作だと、時間的にも精神的にも余裕が持てるようになるまで時間がかかる。将来のお嫁さんに気を遣わせないように、余裕を持った生活をするために今の就職先で頑張ろうと決めました」(添田さん)

2人にミスコンの経験から得た教訓を聞くと、「挑戦することの重要性」と口をそろえて答えた。考えているだけでは前に進めない。夢を実現させるために何をすべきか、それを掴むためにまずは「挑戦」。今の2人からは大学の顔になった華やかさだけでなく、これからの社会を担う人の大人としてのたくましさが見えた。(加藤英樹)



記者プロフィール

加藤 英樹

中央大学総合政策学部政策科学科4年。1994年、東京都練馬区生まれ。区立豊玉中学校卒業後、中央大学杉並高校に入学。英字新聞学会「白門 Herald」編集長。白門 Herald は学生英字新聞として日本一の発刊部数を持つ。

卒業に寄せて

卒業50周年を迎えて

白門四一会支部長
宮田 永生

4つの記念事業

当会会員は平成28年に卒業50周年を迎えた。顧みれば、在学中の母校は神田駿河台に本部があり、学問・スポーツ両面で名声が高かったが、一方では安保闘争で学生運動が激化していた。社会では高度経済成長が加速していたが、景気に波があり就職で苦戦した人も少なくなかった。その後もバブル崩壊等の経済異変や天変地異が続き、戦争やテロも世界各地で頻発した。その不確実な時代をそれぞれの分野で精一杯活動し古稀を越えて生き抜いてきた。

この卒業50周年を記念し、当会では次の4つの記念事業を展開した。まず、卒業50周年記念式典・祝賀会。未加入同期生にも参加を呼び掛け、6月の定時総会当日、上野精養軒で酒井総長・学長並びに久野会長のご臨席を得て116名参加のもとに盛大に開催した。

9月には記念式典等開催報告、座談会及び会員30名の寄稿文を掲載

した会報「卒業50周年記念号」を発行したほか、1泊2日の卒業50周年記念「諏訪・蓼科高原バス旅行会」を実施し40名が参加した。

10月には卒業後50年学員対象のホームカミングデー特別企画、「5校地バスツアー」と「卒業後50年学員懇親会」に参加した。この特別企画に向けては大学から約4,000名の対象者へ案内状を送付した際、当会も相乗りして参加を呼び掛け、当会会員70名を含む同期生延べ290名が参加した。

これらの記念事業の実施に際しては、年次支部の立場から当会PRと入会勧誘も意識し、会員はもとより未加入同期生への参加呼び掛けも積極的に行った。その結果、多くの会員が参加し、未加入同期生との交流も実現し、新規入会者もあり、発展的に卒業50周年の節目を通過することができた。

2011年3月

東日本大震災の影響で卒業式中止

1959(昭和34)年3月、高校を卒業し社会人となり、43年間仕事に専念し、2002年12月定年退職した。退職後、かつて目指した法学を学ぶことを決意し、2003年4月、法学部通信教育課程に64歳で入学しました。

しかし、如何せん脳がなかなか思うように活動せず、教科書に出てくる耳慣れない法律用語、高校生時代も苦手だった英語等に苦しめられ、レポート課題も合格点をもらえず、1年目は3単位のみ取得に終わり、絶望感が頭をよぎりました。時間は十分にあると思い直し、各地で開かれた短期スクーリング(遠くは、盛岡、岡山)にも積極的に参加し8年間を費やし、必要単位を取得し卒業論文・口頭試問もなんとかクリアし、卒業式への参加通知を手にしてこれ

5年後の再会

昨年開催された2011年卒業生の卒業式典・卒業記念パーティーを受け、翌月改めて懇親会を開催いたしました。少人数のカジュアルな雰囲気の中で行われた懇親会では、初めての方同士もすぐに打ち解け、新たな繋がりを生むことが出来たように感じています。

白連会2011支部として卒業式後のパーティーの企画・運営のために話し合いを重ね、時間を共有したことで、今回このように卒業式が終わった後の次の支部としての活動を考えることの出来る環境を持つこと



卒業50周年記念式典・祝賀会に集まった皆さん

幻の卒業式

2011年3月卒業 法学部通信教育課程
平林 健朗

5年後に卒業記念式典が実現

まで支え、励ましてくれた妻とともに喜びました。

ところが、東日本大震災の影響で楽しみにしていた卒業式は中止となり、幻の卒業式となってしまいました。

昨年10月23日のホームカミングデーに「2010年度卒業記念式典—5年後の再会—」が企画され、幻の卒

業式が現実の卒業式となって、久しぶりに母校を訪れ懐かしく楽しい一日を過ごすことができました。感謝、感激でした。「5年後の再会」を企画していただき本当にありがとうございました。

卒業後は、地元長野支部の学習会講師として、後輩の勉学の一助になればと共に学んでおります。



5年後にホームカミングデーで行われた2010年度卒業記念式典

教職員の卒業

文学部教授
(元中大杉並高校校長)
岩下 武彦

中央大学杉並高等学校のこと

2017年3月文学部教授を退官する。中央大学に奉職中、2005年11月から2011年3月まで、中央大学杉並高等学校長を兼務した。

実際接してみると、現場は大変だった。生徒はかなり選ばれているが、全体が幼くなっている世代で、色々と手間暇が掛かる。その上、学校外からの視線も厳しい。教職員の人手は限られている。その分掌表を見て、啞然としたことがある。授業の他に、クラスの経営、課外活動の指導、生活指導、学校行事の運営 etc. etc.一人が幾つもの校務を分担し、そのどれ一つゆるがせには出来ない。教員は長期休暇も有名無実だった。

さらに、附属学校は独立会計で、杉並高校の場合、限られた予算の中で年間4500万円を超える借地料が、重くのしかかっていた。それにも拘わらず居心地が良かったという印象が強いのは、生来楽天的な所為もあるが、教職員が極めて質の高い職業集団だったことと、素直で資質に恵まれた生徒との交流に拠る。

その緊張感の一端を共有できたことが、私にとって貴重な体験であった。

附属学校の生徒達は、それぞれの校風を担って進学してくる。その多様さが大学のエネルギーともなる。とかく推薦時の成績で見られやすいが、彼らの潜在力を引き出すことが、大学の未来を切り拓くこととなるだろう。その確信を持って退職できることを感謝したい。

新たなつながりの誕生

白連会2011支部支部長
沼田 由紀

が出来ました。友人というだけの関係であればその場限りの会話で終わってしまいますが、会の成功という目標、支部として活動するという意識があったからこそ、このような

関係性を築くことが出来たと考えています。

社会に出てから年次を重ね、仕事や家庭の事情で支部としての活動は決して多くはありません。しかし回数を多く持てなくとも、今回のように気軽に集まり、交流を深める機会を細く長く続けていきたいと考えております。

2011年卒業生の皆さまにとってこの支部の存在が故郷の1つとなり、また、支部活動を通じて年次支部及び母校の興隆に少しでも貢献できますよう、今後も励んでまいります。



白連会2011支部のカジュアル懇親会

中大三人寄席

近頃はすっかりおなじみになった中大寄席の若手三人組、桂やまと、春風亭朝也（3月～真打ち昇進で名を改め 三朝）、林家つる子さんの三人会が、1月21日に新宿文化センターで開催された。観客は殆ど中大関係者で満席状態。

筆頭の桂やまと氏の独演会などの人情物は圧巻でさすがの実力、朝也さんも真打ちに昇進されるメリハリのある語り口が絶妙、これまでの襲名披露興行での番頭役（お金の管理や様々な世話をする動きなど）は落語会で一番と評判だそうである。つる子さんは群馬県の観光大使でもあり、女性特有のきめ細かい語り口と笑顔で観客をひきつける。今後の三人の活躍を期待したい。



中大寄席若手三人組

桂やまと氏から 卒業生へのメッセージ

ご卒業おめでとうございます。平成11年文学部卒の落語家・桂やまとです。

卒業式の翌日に入門を願い、本職の道を歩き出してから早いもので18年が経ちました。

落語家の修行は実に昔ながらのやり方で、師匠の言うことが絶対の世界です。明らかに「白」のものでも、師匠が「黒」と言えば私も「黒です!」と答えなければいけません。理不尽で、時代に合わないと思われるかもしれませんが、伝統芸能社会では当たり前のことです。

でもこれって、実は一般社会でもよくあることです。上司の方に同じようなことを言われた時に皆さんならどうしますか。「それは違う」と言いますか? それとも「そうです」と受け入れますか?

私からアドバイスできることは「若いうちは自分の物差しを一度置いてみて」ということ。「私が正しい」という尺度も大切です。でもそれだけで生きていくと、人間の幅が広がらないと断言できます。

取捨選択はじっくり考えてからで十分です。まずはいろんな意見を受

け入れてみてください。それが大きな存在になれるかどうかの勝負だと思います。

社会に出れば多くの中大出身者が活躍しています。そして皆さんを快く応援して下さることでしょ。私もたくさんの応援をいただいています。例えば中大落研OBが開催して下さる、出身落語家三人会には、中大卒の方が大勢お越しく下さいませ。

後輩を育てるのも先輩としての使命と心得ています。私も一人の先輩として、皆さんを長い目で応援していきたいと思います。



桂やまと独演会のお知らせ

白門ミーティング年次支部ブロック開催

2014年度より学員会本部による全国各地7ブロック各支部の現状課題把握、本部や大学への要望を今後の学員会の運営に反映させ、各支部の出席者とのコミュニケーションを図り、学員ネットワークの拡充・強化に繋げるため白門ミーティングが開催されてきた。

年支部協議会を組織し活発な活動を展開している年次支部（現在62支部）を初めて対象にした白門ミーティングが新宿京王プラザホテル47階「あおぞら」で開催され酒井総長学長はじめ大学各役員、久野学員会会長と副会長、各年次支部代表者など70名近い参加者が今後の大学の方向性や要望など活発な意見交換を行った。



白門ミーティング意見交換会後酒井総長学長、久野学員会会長とともに

年次支部協議会のページ

中央大学学生チームが銅メダル獲得!!



中大チーム銅メダル獲得

2016年11月23日に、グローバル社会につながる地域社会ネットワークの構築を目指す大会である文部科学省主催「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」東日本第2ブロックイベント・グローバル人材育成フォーラムが開催され、英語スピーチプレゼンにおいて厳正な審査の結果、出場18大学の内、中

央大学チームが見事銅メダルを獲得した。

これに先立つ10月8日のGO GLOBAL JAPAN 学内選考会英語スピーチコンテスト(国際センター主催)において年次支部協議会は、大学支援委員会の活動協力により昨年同様、優秀者達に図書券を贈呈し、学生のグローバル人材育成に貢献した。



英語スピーチプレゼンに参加した大学生たち

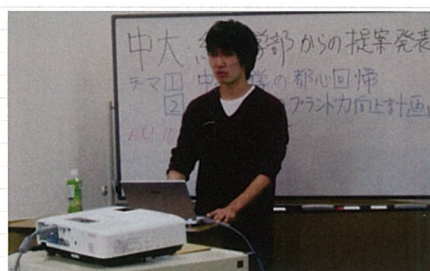


学内選考会

中央大学経済学部学生からの提案発表会開催!!



参加したOBとの質疑応答



テーマに添ってプレゼンするゼミ生



駿河台記念館での提案発表会

2017年2月4日、年次支部協議会3委員会合同企画(主催: 大学支援委員会、学生支援委員会、学員交流委員会)を駿河台記念館で開催。経済学部伊藤伸介准教授と伊藤ゼミ学生の12名による「中央大学の都心回帰」「中央大学のブランド力向上計画」の現在多くの学員の方々にも大変関心の高いタイムリーなテーマであった為、学員OBの参加者も34名の多数参加者となった。両テーマでは中央大学のこれまでの推移、他大学との比較、少子化の中での人気

低下で中大のブランド力を上げるにはどうすべきかの問題提起がされ、プレゼン後の質疑応答では多くの質問、活発な意見交換が行われた。是非大学関係者も参加して聞いて頂きたい内容であった。

学生が自分たちでテーマ設定をし、調査し発表する69団体約400名の経済ゼミナール大会は長きにわたり毎年開催され、部門別に優勝準優勝を競う一大イベントであり今回の伊藤ゼミのテーマは今年度優勝、準優勝を受賞した質の高いプレゼンである。

大学支援委員会の小田委員長による経済学部ゼミ連への働きかけにより、今回の提案発表会が実現したが、このような形での現役学生とのコミュニケーションは例がなく学生やOBにとっても互いに刺激のある貴重な交流の場となった。プレゼン後は近くのレストランで昼食懇親会があり、各テーブル数名の学生達との楽しい交流会となった。是非今後もこのような企画を継続したいと思う。(学員交流委員会 佐藤愛子記)

学会・お知らせのページ



同窓の輪を 広げよう！

中央大学では卒業生を会員と呼び、2015年に創立130周年を迎えた56万人の同窓会です。学会支部には243支部があり、地域124支部(国内・海外に居住・在勤する会員組織)、職域57支部(職種・企業・出身サークルなどの組織)、年次62支部(その年に卒業した年次の組織)で構成されています。様々な分野で活躍している56万人のネットワークを繋ぎ、皆さんが交流・発信する場を提供しています。

どんなサービスや支援があるの？



- ▶ 会員時報、ホームページ等による情報発信
- ▶ 会員交流の場所の提供(東京白門サロン・駿河台記念館7F 大阪白門サロン・阪急グランドビル19F眺望最高)
- ▶ ホームカミングデー(大学主催)への協力
- ▶ 学術・文化講演会の開催
- ▶ 会員カードによる図書館利用、契約ホテルの優待価格利用、施設の割引、オープンカレッジ受講など特典多数



- ▶ 活動支援金の交付
- ▶ 支部役員会開催の為に会議室提供
- ▶ 会員増強の為に情報提供

この他にも母校中央大学への資金協力及び在学生への奨学援助、進路相談会、学術文化・スポーツにおける優秀学生表彰などを行っています。

問い合わせ先

《中央大学学会本部事務局(本会の運営及び事務処理)》

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5 駿河台記念館7F
TEL: 03-3219-6175 / <http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/gakuinkai>

祝

卒業生全員に、**学会から**卒業を記念して「卒業記念MugCup」が贈呈された。

- 会員間の絆が広がり、会員間の親睦を記念して -

COACH



お
知
ら
せ

★2016年度(第134回)中央大学卒業式・大学院修士学位授与式
(文系学部・文系大学院) 日時: 2017年3月25日(土)

場所: 多摩キャンパス

(理工学部・理工学研究科) 日時: 2017年3月24日(金)

場所: 後楽園キャンパス

★2017年度中央大学入学式

(文系学部・文系大学院) 日時: 2017年4月2日(日)

場所: 多摩キャンパス

(理工学部・理工学研究科) 日時: 2017年4月4日(火)

場所: 後楽園キャンパス

★経済学部ロサンゼルス白門会連携「海外インターンシップ」始まる

学会案内

- ▶ 全国支部長会議
2017年5月12日(金)
- ▶ 定時協議会・定時会員総会
2017年5月13日(土)
(場所: 駿河台記念館)
- ▶ 第26回ホームカミングデー
2017年10月22日(日)
(場所: 多摩キャンパス)

現役学生の活躍

バレーボール部

インカレ3連覇達成(中大インカレ優勝最多15回)

石川祐希~新チーム主将、海外再挑戦(イタリア留学)

スケート部

関東アイスホッケーリーグ戦優勝
坂本颯(法3)個人4賞獲得

バドミントン部

全日本学生選手権大会優勝
五十嵐優(法3)インカレ男子
シングルス優勝

相撲部

矢後太規(法4)中大26年ぶり
アマチュア横綱誕生

他自動車部、ハンドボール部、ウエイトリフティング、女子卓球などスポーツ部門が善戦している

吹奏楽部

第56回東京都吹奏楽部コンクール「銀賞」

《年次支部ニュース 第7号》 2017年3月11日 発行

発行者/中央大学学会年次支部協議会 〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学学会事務局気付
発行人/相場 有二 TEL 03-3219-6175 編集/年次支部協議会広報部 印刷所/(株)ディスカバリー